

「芸術の秋」がやってきました。静岡大学で有名な芸術系の部活と言えば…やはり静岡大学吹奏楽団！同楽団は、国公立大学の中では稀にみる全国大会出場の常連で、定期演奏会にはとても多くの人々がその素晴らしい演奏を楽しむために集まります。今回はそんな吹奏楽団の強さのヒミツ、魅力にせまってみよう！ということでサマーコンサート(7/5 静岡市清水文化会館マリナート 大ホールで開催)に向けての直前練習と、本番当日に潜入取材を敢行しました！その模様をお届けします！

■サマーコンサート直前の全体練習に潜入！

<練習の流れ>
1回通して演奏



先生による指導



<吹奏楽団の1週間>

- 月 休み
- 火 金管パート練習
- 水 木管パート練習
- 木 全体練習
- 金 休み(大会前は練習)
- 土 1日練習
- 日 1日練習

100人以上の団員と楽器で練習



先生の絶妙なツッコミによって
笑いが起きる場面も…

打楽器の練習風景



バチをかえたり、演奏する人数をかえたり、
本番直前でもより良い演奏のために
大胆な変更も…



真剣な表情で練習に取り組む
団員の皆さん

■先生にインタビュー



三田村 健先生
静岡大学吹奏楽団音楽監督・常任指揮者

ユーフォニアム奏者として全国的にソロ活動を行うかたわら、青少年のための公演に力を入れている。埼玉在住ながら毎週土、日に静岡大学に指導しにきてくれています！

お昼休憩中の三田村先生に、サマーコンサートや普段の静大吹奏楽団についてのお話を伺いました！

“コンサートのプログラムはコース料理”

サマーコンサートのプログラムは学生がほとんど決めています。でも食べたいものだけを並べてもコース料理にはならないように、やりたい曲だけを並べて構成するわけにはいかないのがコンサート。基本的には学生主体で、私が軌道修正するイメージ。逆に、コンクールは私が選曲します。

“静大吹奏楽団の強さとは”

なによりも“まじめさ”！国立大学でこんなに全国大会に出場できているのは静岡大学だけ。それでも天狗になることなく、みんな謙虚に努力している。守らなければならないものがあるという気持ちを全員が持っている。学生の努力でつかんでいる結果だと思います。

“サマーコンサートへの意気込み”

企画、演奏、観客の反応、この3つがすべて成功してはじめてコンサートの成功といえる。まずは、やっぱりたくさんの方々に聴きにきてほしいです！

■団長にインタビュー 演奏会は「思い」が集まる場

このサマーコンサートは、吹奏楽団1年間の三本柱のうちの一つです。団長として皆に向き合ってきた時間、演奏者として曲に向き合ってきた膨大な時間を、たった2時間の演奏に思いを込めて観客の皆さんに届けなければいけません。演奏会というのは、沢山の人の「思い」が集まる場だと私は思っています。コンサートは、演奏者だけでなく、スタッフや裏方のOB・OGの皆さん、観客の皆さんなど、会場にいる人全員で作り上げるもの。だからこそ感動するのではないかと。曲によってステージに上がることができない団員もいますが、心を乗せることは忘れない。全員でやることに1番の意味があるんです。聴くときに是非このことを思い浮かべてくださると嬉しく思います。



長根 穂南さん(4年 吹奏楽団団長)

■静岡大学吹奏楽団「SUMMER CONCERT 2015」

①リハーサル 強さを実感 吹奏楽団が奏でる音楽♪



三田村先生が各パートの細かい点を最終確認



②第1部:コンクール課題曲 ソロ演奏の場面も
大会の課題曲を優雅に、かつ壮大に演奏



③第2部:ディスコミュージック
雰囲気は一変し、アップテンポの曲などノリノリで演奏。ダンサーの登場など、演出にもこだわりが



④第3部:スピリティッド・アウェイ
1年生も含めた全団員での迫力のある演奏。アンコールでは会場全体が一体に

コンサート本番の裏側に潜入！

楽器や楽譜が準備されており、舞台の裏側では吹奏楽団のOB・OGの方が後輩のサポートをしていた。

演奏前は緊張感、演奏後には団員たちの笑顔や涙を見ることができた。



本番直後の団長 & 演奏会長に突撃取材!

2人ともやりきった表情で「楽しかったです!」と答えてくれました。団長さんの目には涙も…。事前に見どころだと話していた「青銅の騎士」の出来栄に関しても、「第3章の終わりで、演奏終わりのような拍手がもらえてすごく嬉しかったです」とほっとした表情。サマーコンサートは大成功だったようだ。12月には、2人を含む4年生にとって最後の舞台となる定期演奏会が控える。「今年は初の試みとなる浜松・静岡の2回公演が予定されています。皆さんぜひ足を運んでください!」



■取材をおえて

- “真面目”、“真剣さ”
- 連帯力の強さ
- 団員の人柄の良さ
- 練習に取り組む姿勢や音楽に取り組む姿勢、1人1人の思いが集まり最高の形となって音楽を伝えていく。

■編集後記

今回吹奏楽団の取材をさせてもらい、その素晴らしい演奏はもちろんのこと、団員の方々の優しさ、温かさに本当に感動しました。皆さんひたむきで謙虚でありながらも“静岡大学吹奏楽団”の一員であることへの誇りを持っているように感じました。要するに吹奏楽団のファンになりました!感謝でいっぱいです。ありがとうございました。(山本 萌葉)

■インタビューー

- 人文社会科学部 3年 山本 萌葉
- 教育学部 3年 森川 亮太
- 人文社会科学部 1年 山下 琴音
- 人文社会科学部 1年 金子 ひかり
- 人文社会科学部 1年 林 遥香
- 人文社会科学部 1年 沼野 友里亜